

平成29年度 生活環境部の重点課題

部長名 大喜多 章親

<全体方針>

地域課題が複雑化・多様化する中で、安心して暮らすことのできるまちづくりのためには地域の方々と情報や課題を共有しながら、協働して解決をしていくことが必要である。そこで、職員一人ひとりが市民ニーズを把握しながら、コミュニティをはじめ各種団体、NPO、民間企業の方々などと連携しながら、生活環境の一層の充実と地域力の向上を目指していく。

また、市民が訪れる窓口では、常に親切・丁寧な対応を心がけるとともに、市民サービスの向上に努める。

<課ごとの指導方針>

市民活動推進課

地域の課題解決に向けた研究や取組など、コミュニティの自主的活動を支援するとともに、地域住民をはじめ、NPOや大学、企業等、地域貢献をめざす多様な主体のまちづくりへの参画を推進する。また、生涯学習を通じて地域コーディネーターを育成するなど、地域の課題と人材とを結び付ける仕組みづくりに取り組む。離島振興については、島民の安定的生活の確保を第一としつつ、塩飽の島々を本市の魅力ある交流拠点の一つとして、県内外へ向けて広くPRする。

スポーツ推進課

なでしこ発祥の地として女子サッカーの裾野を広げるなど、競技としてスポーツに取り組む子どもたちの環境づくりに取り組む。また、野球場の効率的な管理運営を行うとともに、効果的な利活用を図る。また、地域密着型プロスポーツを活用したホームタウン活動を引き続き実施し、さらなるにぎわい創出を目指す。香川丸亀国際ハーフマラソンについては、本市のスポーツ振興はもとより地域活性化に貢献できるよう支援を行う。

市民課

窓口サービスの市民満足度を高めるため、各種届出の受付や証明書等の交付など、窓口サービスが安定して提供できるよう人材の育成や配置を行う。また、個人番号カードの円滑な交付に努めるとともに、個人番号を利用したマイナポータル（情報提供等記録開示システム）や情報提供ネットワークシステムの開始に備え、情報セキュリティ水準の維持向上を図る。

環境安全課

市民の健康で文化的な生活を将来にわたって確保する上で、生活環境の保全是極めて重要である。空き家対策事業は、昨年度策定した空き家対策計画に沿って空き家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施する。また、環境保全率先実行計画を見直し、丸亀市役所が自らの事務・事業により排出される温室効果ガス排出を抑制することは、地域全体の実質的な削減に寄与するものであることから、率先的な取組を行い地域の模範になるよう努める。

クリーン課

安全で良好な市民生活を持続的に発展させるため、4R活動を推進し循環型社会を形成することが求められている。そこで、新たに廃食油の拠点回収を実施するとともに、廃棄物の減量化が促進され、収集・運搬・処分の効率化が図られる施策を計画的且つ総合的に実施する。

平成29年度 各課の重点的取組				最終評価	
課名 (連携が必要な部署)	重点課題	課題解決に向けた 具体的方策	成果目標	評価 (進捗結果)	所見
市民活動推進課	★コミュニティ自ら地域課題に対処した取組への支援と地域活動のPR強化	●コミュニティの自主的な課題研究や活動を支援する。 (協議会連合会によるプロジェクト会議を支援) ●各々の活動内容を地域間で共有するとともに、市職員、その他対外的にも広くPRする。 (研修会や事例発表の場、地域担当職員等の活用)	○プロジェクト会議の開催支援：1回/月程度 ○「まちづくり大賞」を選考し、事例発表を行う(8月) ○地域担当職員参画による地域の特徴的活動の紹介：各地区2	B	○概ね月一回開催されるプロジェクト会議では、当課の他、関係課にも参加いただき、事業提案や助言を行なった。 ○「まちづくり大賞・優秀賞」受賞のコミュニティに8月17日開催の「コミュニティ・自治会長研修会」の場で受賞事業の発表をしていただき、コミュニティ、自治会関係者など285名の参加があった。 ○地域担当職員が作成した地域の特徴的活動事例を冊子にまとめ、7月に庁内、議会、各コミュニティに配布するとともに、HPにも掲載し、地

	<p>★コミュニティ活動拠点の整備</p>	<p>●地域担当職員制度について、必要な見直しを行なう。(第1期の任期終了に伴う見直し)</p> <p>●地域活動の拠点となるコミュニティセンターの整備工事に着手する。(城坤、栗熊)</p>	<p>事業</p> <p>○担当職員制度の見直し (H30年3月)</p> <p>○本体工事の発注</p> <p>・城坤 (6月)</p> <p>・栗熊 (9月)</p>	<p>域活動のPRを行なった。</p> <p>○担当職員の制度については、地域の声も参考にしながら、平成30年度に向け、必要な見直しを行った。</p> <p>○本体工事の発注</p> <p>・城坤 (10月)</p> <p>・栗熊 (9月)</p>
市民活動推進課	<p>★市民活動・協働基盤の強化、担い手の発掘</p>	<p>●市民活動情報ネット「まるがめっと」の利用を促進する。</p> <p>●大学・企業等への積極的な働きかけと、ワークショップやクラウド・ファンディングの活用を推進する。</p> <p>●「市民交流活動センター」の設置に向けて検討する。</p>	<p>○HPのユーザー数：1,100/年平均 (H28年度：1053)</p> <p>○ワークショップ・講演会の開催回数：1回/年</p> <p>○クラウド・ファンディングによる事業の成立件数：1件以上</p> <p>○センターの機能等を決定 (H30年3月)</p>	<p>○HPのユーザー数： 901 / 11ヶ月平均 (平成30年2月末現在)</p> <p>○ワークショップ(以下、「WS」)形式の協働推進員研修を2回開催(11月14日 39名、2月20日 23名参加)</p> <p>B ○クラウド・ファンディングを活用した事業提案数 1件(※FAAV0香川利用・市内の案件)</p> <p>○「市民交流活動センター(仮称)を考えるWS」を9月3日、「子どもと親の交流ゾーンのビジョンづくりを楽しむWS」を3月15日に開催し、それぞれ39名、28名の参加があった。</p>
	<p>★島民の安定的生活の確保と島固有の魅力発信</p>	<p>●定期航路の安定運行と通勤・通学等の日常生活を支援する。</p>	<p>○航路確保維持改善協議会の開催 (6月)</p>	<p>○航路確保維持改善協議会を6月21日に開催した。</p>

	<p>●広島中学校校舎を活用し、コミュニティセンターと市民センターの整備工事に着手する。</p> <p>●県や他市町と連携のもと、各種催しを通じて島の魅力を発信するとともに移住・定住を促進する。</p>	<p>○整備工事の発注（7月）</p> <p>○特産品の販売や島の情報提供： ・高松、東京での催し（11月）</p>	B	<p>○本市離島航路の確保・維持を図るため、本島航路を就航する「ほんじま丸」を、12月に運航事業者から買取り、無償貸付けを行った。</p> <p>○旧広島中学校の整備は、7月に工事を着工し、2月竣工、3月20日から広島市民センター、コミュニティセンター、消防屯所の複合施設として供用を開始した。</p> <p>○島フェスタ（高松）やアイランダー2017（東京）において、島の特産品の販売や情報提供を行い、県内外に本市離島のPR等を行った。</p> <p>○島への移住者（H29年度） 本島1名、広島2名（夫婦1組）</p>
★生涯学習による地域課題と人材とを結びつける機能の強化	<p>●教育委員会と歩調を合わせ、学校と地域の連携強化に取り組む。（小中一貫教育学校群との連携強化や学校支援ボランティア促進事業の拡大）</p> <p>●各コミュニティにおいて地域づくりに関するコーディネーターや生涯学習を推進する人材を育成する。</p>	<p>○学校支援ボランティア促進事業（飯山校区で実施中）：新たに1小学校区以上で実施</p> <p>○地域コーディネーター候補者の養成：15名</p> <p>○生涯学習推進員の設置：コミュニティ17</p>	B	<p>○本年度から新たに富郷小学校区において、学校支援ボランティア促進事業を実施する組織（地域学校協働本部）が設立され、学校の環境整備やミシン補助等の活動を開始した。</p> <p>○本年7月に地域コーディネーター養成塾を開設し、受講生34名が年6回の視察やグループワークなどに参加しながら学んだ。地域コーディネーター候補者として20名に修了証書を交付した。</p> <p>○本年7月に17コミュニティ全てに生涯学習推進員を委嘱した。生涯学習推進員による各種講</p>

		●市庁舎等複合施設の整備と合わせ、丸亀市生涯学習センターのあり方を検討する。	地区（7月） ○施設整備の方向性の決定（H30年3月）		座の確認作業を行った。 ○現在、検討中
スポーツ推進課	★女子サッカーなど競技スポーツに取り組む子供達への環境づくり。	●女子サッカーのみならず、今年度は女子バスケットについて一流の選手を招聘した教室を開催する。	○将来的に全国大会等で活躍できる市民の輩出。 ・国民体育大会出場選手数の増加： 平成28年度 25人 平成32年度までに 50人超	B	○第3回丸亀なでしこスマイル☆サッカー交流大会を開催（2/10, 11）参加14チーム。 ○女子サッカーの裾野の広げるために女性のためのサッカークリニックを11回開催。参加者のべ446人 ○デンソーアイリスバスケットボール教室（6/17）を中讃定住自立圏で開催し、2市3町から76人の参加。 ○国体参加選手47人。また、全国・世界大会出場に係る報奨金支給件数は24件（前年度24件）、うち世界大会は2件（前年度1件）
	★野球場及び地域密着型プロスポーツを活用したにぎわい創出。	●野球関係者以外にも気軽に野球場が活用できるようイベントを開催する。 また、地域密着型プロスポーツ開催時には積極的にシティセールスを実施する。	○丸亀総合運動公園の利用者数：前年度より増加 （平成28年度257,850人） （平成29年度260,000人）	B	○アウェイセールス：市単独2回。ホームセールス：県との共同2回、中讃定住自立圏共同2回、市単独2回。合計8回のシティセールスを行い、にぎわいづくりに努めた。 ○ウエスタン・リーグ、幼稚園・こども園まつり、スポフェスin四国Cスタ丸亀など市民球場を活用したイベントを市単独、各種団体との協働、プロスポーツチームと連携して開催した。 ○総合運動公園利用者数（2月末現在216,307人）
	★香川丸亀国際ハーフマラソン大会について今までの実績を継続し、本市の魅力を全国に発信。	●第72回香川丸亀国際ハーフマラソン大会の開催：2月3～4日 ●関係団体との連絡調整 ・主催者代表者会：年2回	○参加申込者数 ・ハーフマラソン：10,000人以上 ・3km	B	○関係団体との連絡調整については予定どおり実施。 ○広告協賛企業については71回大会を上回る291社の協賛を得た。

		<ul style="list-style-type: none"> ・幹事会代表者会：年6回 ・幹事会：年7回 ・マーケティング部会：年4回 ・安定した財政基盤の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ：1,000人以上 ・小学校駅伝 ：男女各5チーム400人 ○広告協賛企業の拡充 (71回大会282社) (72回大会300社以上) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ハーフマラソン大会の参加者数については予定の申込者数に達した。 最終的な申込者数 ハーフの部 11,466人 3kmの部 892人 小学生駅伝 86チーム 344人
市民課	★安定的な窓口サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ●繁忙期における待ち時間短縮 ・繁忙期における臨時職員・派遣職員の配置 ・他の部署からの市民課窓口経験者の応援依頼 ●市町村アカデミーなど外部研修所の窓口サービス研修参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○待ち時間 異動届出 30分以上 (月に3日まで) 証明発行 15分以上 (月に2日まで) ○市町村アカデミーの研修参加 1人 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○繁忙期に臨時職員や派遣職員を配置して待ち時間の短縮を図った結果、異動届出の待ち時間30分以上は月1日まで、証明発行の待ち時間15分以上は月2日までとなっている。 ○市町村アカデミーの研修「住民窓口サービスの向上」に1人参加した。
	★個人番号カードの円滑な交付	<ul style="list-style-type: none"> ●個人番号カードを円滑に交付するため、臨時職員や派遣職員を配置 ●情報セキュリティ水準の維持向上のための研修参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○待ち時間 30分以上 (月に0日) ○情報セキュリティ研修参加 2人 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時職員と派遣職員を配置し、待ち時間30分以内で交付できている。 ○情報セキュリティ研修に2人参加した。
環境安全課	★空家等に関する施策の総合的な推進	<ul style="list-style-type: none"> ●空家等の所有者等情報に関する調査業務の実施 ●不動産の専門家による、空家の所有者対象の、除却や利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間100件 ○年6回開催 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○所有者等による空家等の適切な管理を促進するため、戸籍や登記簿謄本等を取得し、空家等の所有者等情報に関する調査を約100件実施した。

		に関する相談会の実施 ●老朽危険空家の除却に対する補助制度の実施	○補助件数：30件		5, 6, 7, 9, 11, 2月に宅建協会による空家相談会を実施し、42件の相談があった。 老朽危険空き家除却支援事業補助金の交付決定を43件行った。
	★丸亀市環境保全率先実行計画の策定	●エネルギー使用実態調査及び省エネ診断の実施	○丸亀市環境保全率先実行計画の策定（平成29年度内）	B	○省エネ診断現地調査を10月、11月に公共施設10ヶ所で実施し、調査結果を踏まえて丸亀市環境保全率先実行計画を改定した。
	★丸亀コミュニティバスの更なる利便性の向上	●利用者の利便性向上を図り利用者の増加に繋がるよう定期的に見直しを行う。	○バス停の増設など	B	○市民からの要望により、10月1日より運行ルートや時刻等を見直し、改正後も5路線72便を維持し運行している。
クリーン課	★資源回収品目の見直し	●廃食油の拠点回収を実施する。	○回収予定量：20000	B	○4月からクリーンセンター丸亀において、拠点回収を実施している。2月末までの回収実績は、6330。
	★ごみ集積場（ステーション）設置要綱の整備	●コミュニティとの協力体制ができる要綱をコミュニティと調整しながら整備する。	○29年度中に整備	B	○今年度、丸亀市コミュニティ協議会連合会とプロジェクト会議を9回開催・協議を進め、平成30年7月1日から要綱を施行することとなった。